

浜の活力再生プラン
令和 6 ～ 1 0 年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	佐伯地域水産業再生委員会 蒲江地区作業部会
代表者名	部会長 森崎 真吾（大分県漁業協同組合 蒲江地区漁業運営委員長）

再生委員会の構成員	大分県漁業協同組合、佐伯市、大分県、大分県南部漁業青年協議会、佐伯地区漁協女性部連絡協議会
オブザーバー	—

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	佐伯市蒲江地区（大分県漁協蒲江支店） 魚類養殖（22名）、貝類養殖（16名）、一本釣り（18名）、潜水（20名）、刺網（13名）、かご（2名）、小型底曳網（2名）、延縄（2名）、大型定置網（2名）、小型定置網（5名）、中型旋網（6名）、小型旋網（5名）（兼業による重複あり。重複を排除した実数は110名）（令和 5 年10月30日現在）
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

佐伯市蒲江地区は、大分県最南端豊後水道入り口部に位置し、南東部に細長く85kmにおよぶリアス海岸によって形成され、外洋の影響を比較的受けにくい漁場を利用して漁船漁業、魚類・貝類養殖業が盛んに行われている。当地区では、まき網漁業、ブリ・カンパチ・タイ等を中心とした養殖漁業、大型・小型定置網漁業を主体に、一本釣り、潜水、刺網、延縄漁業などが営まれている。

地区内の水産業を取り巻く環境は依然として厳しく、漁船漁業では海水温の上昇による回遊魚の来遊時期の変動や藻場の消失、漁獲量の減少が年々進んでおり、それに燃油高騰が続いているため経営は非常に厳しい状況である。また魚類養殖業においても魚価の伸び悩みや資材・餌料の高騰により経営は大変厳しい状況であり、人材の確保も深刻な問題になりつつある。さらに近年、毎年のように発生する赤潮・貝毒プランクトンに対する対策も急務である。

加えて、水産資源の減少や高齢化・後継者不足などもあり、漁家経営は非常に厳しい状況である。特に藻場の消失は水産資源減少の一因であると考えられているため、水産多面的機能発揮対策事業などの公的支援制度の活用により藻場の回復を図り、また外国人労働者の雇用も検討している。

(2) その他の関連する現状等

平成27年度に東九州自動車道が開通し、蒲江ICの入り口近くには、平成26年5月に「かまえインターパーク」が開設され、当地訪問者の増加による消費増が期待されたが、近隣地区にある「大分県マリンカルチャーセンター」が廃止となったこと、また新型コロナウイルス感染症の影響で観光客数が減少したこと等により、消費は増加していない。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1 漁業収入向上のための取組

(1) 種苗放流

- ①これまでの活動で一定の成果が得られているが、さらなる放流効果向上に向けて、放流方法の改善及び環境の変化に対応した魚種の選定を行う。併せて、藻場造成等による生育環境の整備を併せて実施することにより、漁獲量の向上を目指す。

(2) 漁獲物の鮮度保持

- ①漁獲時や出荷時における魚体の身擦れを抑制することにより、低い単価で取り引きされる漁獲物の割合を減らし、平均単価の向上を図る。
- ②新たに整備する製氷貯氷施設の利用方法改善を進めることにより、漁獲物の鮮度保持機能の向上を図る。

(3) 直販イベント

- ①直売イベントにおけるヒオウギガイ・イワガキの販売価格は、市場取引価格の1.5～2.0倍であるため、県内の祭事会場や商業施設における直販イベントを積極的に実施することにより、直売比率を高め、平均単価の向上を図る。併せて、養殖ブリ、養殖ヒラメ等の販売促進活動を行う。

(4) 養殖二枚貝の周年出荷体制の構築

- ①近年、貝毒の発生によるヒオウギガイ・イワガキの出荷自粛措置が度々行われており、取引上の機会損失が生じているため、第2期に二枚貝の冷凍技術を開発し、冷凍貝の周年出荷が可能になった。今後は徐々に冷凍販売の数量を増やし、機会損失の削減による所得の向上を図る。
- ②貝毒発生時においても活貝出荷が出来る体制を構築するため、清浄な地下海水を使用した蓄養施設を整備する。

(5) 共同利用施設の整備

- ①既存の製氷貯氷施設の老朽化による機能低下が認められることから、新たな製氷貯氷施設の整備による水産物鮮度保持機能の強化を行う。
- ②既存の船揚施設は老朽化による機能低下が認められることから、漁船保全修理機能の強化を図るため、船揚施設の整備について検討・実施する。
- ③漁協荷捌所の活魚水槽は老朽化による機能低下が認められることから、活魚の取扱機能を強化するため、活魚水槽の整備について検討・実施する。

2. 漁業コスト削減のための取組

(1) 省エネ活動等による省コスト化

- ①燃油価格の上昇により、漁業経営の圧迫が深刻であることから、低速航行の徹底による燃油コストの削減を図る。
- ②燃油や配合餌料価格の高騰に対応するため、漁協はセーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。

(2) 合理化による省コスト化

- ①既存の製氷貯氷施設の能力が低く、有人で運用していることにより、繁忙期は他の地域へ氷を買いに行く、深夜は待ち時間が生じる等、氷購入に係るコストが増えている。そこで、新たな製氷貯氷施設を整備することにより、氷の供給機能を強化し、氷購入コストの削減を図る。

3. 漁村の活性化のための取組

(1) 漁業人材育成

- ①地域の小中学校で魚の捌き方教室を実施することにより、魚離れが顕著である若者に対する魚食普及を図る。併せて、漁業の魅力を伝えることにより、後継者対策に繋げる。

(2) 漁場清掃活動

- ①蒲江地区の海岸及び海上の清掃活動を実施することにより、漁場環境の保全を図る。

(3) 資源管理に係る取組

- ・禁漁区・禁漁期間を設け水産資源の管理に取り組む。
- ・漁業法、県漁業調整規則、海区調整委員会指示、資源管理協定による規制に加えて漁業者間による自主的な管理等を実施し効果的な資源管理に取り組む。
- ・カサゴの種苗放流を行うことにより、資源管理を図る。
- ・放流効果を高めるために体長制限を設ける等、資源管理に積極的に取り組む。

(4) 具体的な取組内容

1 年目（令和 6 年度） 所得向上率（基準年比）2.93%

漁業収入向上のための取組	1 漁業収入向上のための取組 (1) 種苗放流 ①クルマエビ資源の増大を図るため、小型底曳網漁業者が中心となって種苗放流を実施する。放流箇所にはあらかじめ囲い網を設置することにより、種苗の環境への馴致と食害の防止を図り、放流後の生残率向上を目指す。 ②カサゴ資源の増大を図るため、漁船漁業に従事する組合員が主体となってカサゴの種苗放流を継続的に行う。 (2) 漁獲物の鮮度保持 ①漁獲時や出荷時における魚体の身擦れを抑制することにより、低い単価で取り引きされる漁獲物の割合を減らし、平均単価の向上を図る。 (3) 直販イベント ①直売イベントにおけるヒオウギガイ・イワガキの販売価格は、市場取引価格の1.5～2.0倍であるため、県内の祭事会場や商業施設における直販イベントを積極的に実施することにより、直売比率を高め、平均単価の向上を図る。併せて、養殖ブリ、養殖ヒラメ等の販売促進活動を行う。 (4) 養殖二枚貝の周年出荷体制の構築 ①ヒオウギガイ・イワガキの冷凍販売の数量を増やす。 ②貝毒発生時においても活貝出荷が出来る体制を構築するため、清浄な地下海水を使用した蓄養施設の整備について検討・実施する。 (5) 共同利用施設の整備 ①既存の製氷貯氷施設の老朽化による機能低下が認められることから、新たな製氷貯氷施設の整備による水産物鮮度保持機能の強化を行う。令和6年度は、製氷貯氷施設の設計を行う。 ②既存の船揚施設は老朽化による機能低下が認められることから、漁船保全修理機能の強化を図るため、船揚施設の整備について検討・実施する。 ③漁協荷捌所の活魚水槽は老朽化による機能低下が認められることから、活魚の取扱機能を強化するため、活魚水槽の整備について検討・実施する。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ①前期からの構成員全員による2ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。 (2) 合理化による省コスト化 ①製氷貯氷施設の整備による氷購入コストの削減 新たな製氷貯氷施設の整備による氷購入コストの削減方法について、関係者で協議・検討する。

漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成 ① 地元小中学校等における魚の捌き方教室を年2回以上実施することにより、魚離れが顕著である若者に対して魚食普及を図り、併せて後継者対策及び新規就業者の確保につなげる。 (2) 漁場清掃活動 ① 漁業後継者が中心となって海岸及び海上清掃を年1回以上実施することにより、漁場環境の保全及び沿岸部のクリーンアップ意識の啓発を図る。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 水産業強化支援事業（国） ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）4.61%

漁業収入向上のための取組	1 漁業収入向上のための取組 (1) 種苗放流 ① クルマエビ資源の増大を図るため、小型底曳網漁業者が中心となって種苗放流を実施する。放流箇所にはあらかじめ囲い網を設置することにより、種苗の環境への馴致と食害の防止を図り、放流後の生残率向上を目指す。 ② カサゴ資源の増大を図るため、漁船漁業に従事する組合員が主体となってカサゴの種苗放流を継続的に行う。 (2) 漁獲物の鮮度保持 ① 漁獲時や出荷時における魚体の身擦れを抑制することにより、低い単価で取り引きされる漁獲物の割合を減らし、平均単価の向上を図る。 (3) 直販イベント ① 直売イベントにおけるヒオウギガイ・イワガキの販売価格は、市場取引価格の1.5～2.0倍であるため、県内の祭事会場や商業施設における直販イベントを積極的に実施することにより、直売比率を高め、平均単価の向上を図る。併せて、養殖ブリ、養殖ヒラメ等の販売促進活動を行う。 (4) 養殖二枚貝の周年出荷体制の構築 ① ヒオウギガイ・イワガキの冷凍販売の数量を増やす。 ② 貝毒発生時においても活貝出荷が出来る体制を構築するため、清浄な地下海水を使用した蓄養施設の整備について検討・実施する。 (5) 共同利用施設の整備 ① 既存の製氷貯氷施設の老朽化による機能低下が認められることから、新たな製氷貯氷施設の整備による水産物鮮度保持機能の強化を行う。令和7年度は、令和6年度に作成の設計をもとに本工事を行う。 ② 既存の船揚施設は老朽化による機能低下が認められることから、漁船保全修理機能の強化を図るため、船揚施設の整備について検討・実施する。 ③ 漁協荷捌所の活魚水槽は老朽化による機能低下が認められることから、活魚の取扱機能を強化するため、活魚水槽の整備について検討・実施する。
--------------	---

漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ①前期からの構成員全員による2ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。 (2) 合理化による省コスト化 ①製氷貯氷施設の整備による氷購入コストの削減 新たな製氷貯氷施設の整備による氷購入コストの削減方法について、関係者で協議・検討する。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成 ①地元小中学校等における魚の捌き方教室を年2回以上実施することにより、魚離れが顕著である若者に対して魚食普及を図り、併せて後継者対策及び新規就業者の確保につなげる。 (2) 漁場清掃活動 ①漁業後継者が中心となって海岸及び海上清掃を年1回以上実施することにより、漁場環境の保全及び沿岸部のクリーンアップ意識の啓発を図る。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） 水産業強化支援事業（国） ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）6.46%

漁業収入向上のための取組	1 漁業収入向上のための取組 (1) 種苗放流 ①クルマエビ資源の増大を図るため、小型底曳網漁業者が中心となって種苗放流を実施する。放流箇所にはあらかじめ囲い網を設置することにより、種苗の環境への馴致と食害の防止を図り、放流後の生残率向上を目指す。 ②カサゴ資源の増大を図るため、漁船漁業に従事する組合員が主体となってカサゴの種苗放流を継続的に行う。 (2) 漁獲物の鮮度保持 ①漁獲時や出荷時における魚体の身擦れを抑制することにより、低い単価で取り引きされる漁獲物の割合を減らし、平均単価の向上を図る。 ②新たに整備した製氷貯氷施設の利用方法の改善を進めることにより、漁獲物の鮮度保持機能の向上を図る。 (3) 直販イベント ①直売イベントにおけるヒオウギガイ・イワガキの販売価格は、市場取引価格の1.5～2.0倍であるため、県内の祭事会場や商業施設における直販イベントを積極的に実施することにより、直売比率を高め、平均単価の向上を図る。併せて、養殖ブリ、養殖ヒラメ等の販売促進活動を行う。 (4) 養殖二枚貝の周年出荷体制の構築 ①ヒオウギガイ・イワガキの冷凍販売の数量を増やす。 ②貝毒発生時においても活貝出荷が出来る体制を構築するため、清浄な地下海水を使用した蓄養施設の整備について検討・実施する。 (5) 共同利用施設の整備 ①既存の船揚施設は老朽化による機能低下が認められることから、漁船保
--------------	---

	全修理機能の強化を図るため、船揚施設の整備について検討・実施する。 ②漁協荷捌所の活魚水槽は老朽化による機能低下が認められることから、活魚の取扱機能を強化するため、活魚水槽の整備について検討・実施する。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ①前期からの構成員全員による2ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。 (2) 合理化による省コスト化 ①製氷貯氷施設の整備による氷購入コストの削減 新たな製氷貯氷施設を活用することにより、氷購入コストの削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成 ①地元小中学校等における魚の捌き方教室を年2回以上実施することにより、魚離れが顕著である若者に対して魚食普及を図り、併せて後継者対策及び新規就業者の確保につなげる。 (2) 漁場清掃活動 ①漁業後継者が中心となって海岸及び海上清掃を年1回以上実施することにより、漁場環境の保全及び沿岸部のクリーンアップ意識の啓発を図る。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

4年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）8.18%

漁業収入向上のための取組	1 漁業収入向上のための取組 (1) 種苗放流 ①クルマエビ資源の増大を図るため、小型底曳網漁業者が中心となって種苗放流を実施する。放流箇所にはあらかじめ囲い網を設置することにより、種苗の環境への馴致と食害の防止を図り、放流後の生残率向上を目指す。 ②カサゴ資源の増大を図るため、漁船漁業に従事する組合員が主体となってカサゴの種苗放流を継続的に行う。 (2) 漁獲物の鮮度保持 ①漁獲時や出荷時における魚体の身擦れを抑制することにより、低い単価で取り引きされる漁獲物の割合を減らし、平均単価の向上を図る。 ②新たに整備した製氷貯氷施設の利用方法の改善を進めることにより、漁獲物の鮮度保持機能の向上を図る。 (3) 直販イベント ①直売イベントにおけるヒオウギガイ・イワガキの販売価格は、市場取引価格の1.5～2.0倍であるため、県内の祭事会場や商業施設における直販イベントを積極的に実施することにより、直売比率を高め、平均単価の向上を図る。併せて、養殖ブリ、養殖ヒラメ等の販売促進活動を行う。 (4) 養殖二枚貝の周年出荷体制の構築 ①ヒオウギガイ・イワガキの冷凍販売の数量を増やす。 ②貝毒発生時においても活貝出荷が出来る体制を構築するため、清浄な地
--------------	--

	下海水を使用した蓄養施設の整備について検討・実施する。 (5) 共同利用施設の整備 ①既存の船揚施設は老朽化による機能低下が認められることから、漁船保全修理機能の強化を図るため、船揚施設の整備について検討・実施する。 ②漁協荷捌所の活魚水槽は老朽化による機能低下が認められることから、活魚の取扱機能を強化するため、活魚水槽の整備について検討・実施する。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ①前期からの構成員全員による2ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。 (2) 合理化による省コスト化 ①製氷貯氷施設の整備による氷購入コストの削減 新たな製氷貯氷施設を活用することにより、氷購入コストの削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成 ①地元小中学校等における魚の捌き方教室を年2回以上実施することにより、魚離れが顕著である若者に対して魚食普及を図り、併せて後継者対策及び新規就業者の確保につなげる。 (2) 漁場清掃活動 ①漁業後継者が中心となって海岸及び海上清掃を年1回以上実施することにより、漁場環境の保全及び沿岸部のクリーンアップ意識の啓発を図る。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

5年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）10.25%

漁業収入向上のための取組	1 漁業収入向上のための取組 (1) 種苗放流 ①クルマエビ資源の増大を図るため、小型底曳網漁業者が中心となって種苗放流を実施する。放流箇所にはあらかじめ囲い網を設置することにより、種苗の環境への馴致と食害の防止を図り、放流後の生残率向上を目指す。 ②カサゴ資源の増大を図るため、漁船漁業に従事する組合員が主体となってカサゴの種苗放流を継続的に行う。 (2) 漁獲物の鮮度保持 ①漁獲時や出荷時における魚体の身擦れを抑制することにより、低い単価で取り引きされる漁獲物の割合を減らし、平均単価の向上を図る。 ②新たに整備した製氷貯氷施設の利用方法の改善を進めることにより、漁獲物の鮮度保持機能の向上を図る。 (3) 直販イベント ①直売イベントにおけるヒオウギガイ・イワガキの販売価格は、市場取引価格の1.5～2.0倍であるため、県内の祭事会場や商業施設における直販イベントを積極的に実施することにより、直売比率を高め、平均単価の
--------------	---

	向上を図る。併せて、養殖ブリ、養殖ヒラメ等の販売促進活動を行う。 (4) 養殖二枚貝の周年出荷体制の構築 ① ヒオウギガイ・イワガキの冷凍販売の数量を増やす。 ② 貝毒発生時においても活貝出荷が出来る体制を構築するため、清浄な地下海水を使用した蓄養施設の整備について検討・実施する。 (5) 共同利用施設の整備 ① 既存の船揚施設は老朽化による機能低下が認められることから、漁船保全修理機能の強化を図るため、船揚施設の整備について検討・実施する。 ② 漁協荷捌所の活魚水槽は老朽化による機能低下が認められることから、活魚の取扱機能を強化するため、活魚水槽の整備について検討・実施する。
漁業コスト削減のための取組	(1) 省エネ活動等による省コスト化 ① 前期からの構成員全員による2ノット減速航行を徹底することにより、燃油消費量を削減する。また、燃油・配合飼料価格の高騰に対応するため、セーフティーネット構築事業の推進拡大に努める。 (2) 合理化による省コスト化 ① 製氷貯氷施設の整備による氷購入コストの削減 新たな製氷貯氷施設を活用することにより、氷購入コストの削減を図る。
漁村の活性化のための取組	(1) 漁業人材育成 ① 地元小中学校等における魚の捌き方教室を年2回以上実施することにより、魚離れが顕著である若者に対して魚食普及を図り、併せて後継者対策及び新規就業者の確保につなげる。 (2) 漁場清掃活動 ① 漁業後継者が中心となって海岸及び海上清掃を年1回以上実施することにより、漁場環境の保全及び沿岸部のクリーンアップ意識の啓発を図る。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティーネット構築事業（国） 水産多面的機能発揮対策事業（国） ALPS処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援（国）

(5) 関係機関との連携

国の事業を積極的に有効活用し、大分県、佐伯市、大分県漁業協同組合本店・各支店と緊密に連携して事業を行う。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の成果を評価・分析するため、委員会は毎年度末にチェックシートを作成し、取組の進捗や経年推移を確認する。 チェックシートは、大分県水産業普及指導員及び佐伯市水産課職員による検証を行い、専門的な知見からの助言を得て、評価・分析手法の改善を図る。 毎年度末に開催する会員会議においてチェックシートの内容を周知し、評価・分析結果の共有を図るとともに、最終年度は、5年間の取組結果を取りまとめの上、評価・検証し、次期プランの策定に向けての方向性を決定する。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

ヒオウギガイ・イワガキの 冷凍品販売 (単位：t)	基準年	令和4年度： 1 t
	目標年	令和10年度： 3 t
新規就業者の継続的な確保	基準年	平成30年度～令和4年度：延べ18人
	目標年	令和6年度～令和10年度：延べ15人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

【ヒオウギガイ・イワガキの冷凍品販売】 貝毒プランクトンの影響による活貝の出荷自粛措置が行われた際の対処として、ヒオウギガイ等の冷凍保存技術を開発したことにより、周年出荷体制が確立された。令和4年度は1トンの冷凍販売を行った。活貝の生産量は年間約50tだが、貝毒による出荷停止期間が約1ヶ月続くこともあることから、生産量の4%～5%を冷凍販売の目標とした。将来的には海外への輸出も見据えている。 【新規就業者の継続的な確保】 本地区において、平成30年度～令和4年度の新規就業者数は延べ18人であった。令和6～10年度の5年間において、新規就業者を延べ15人確保することを目指す。 なお、各地区が今後確保する新規就業者数の長期目標は、令和6年度中に策定予定の新たな大分県農林水産業振興計画に盛り込むことも検討されているところである。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
① 漁業経営セーフティ ーネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業収入の安定を図り、漁業所得を確保する。
② 水産多面的機能発揮 対策事業	漁業者グループが磯焼け対策等の保全活動を実施することで、藻場造成を図り資源増加を図る。
③ 水産業強化支援事業	共同利用施設（製氷施設）を整備し、漁業所得の向上及び漁業コストの削減を図る。
④ ALPS処理水の海洋放 出に伴う影響を乗り 越えるための漁業者 支援（国）	ALPS 処理水海洋放出の影響のある漁業者が、売上高向上又は基本コスト削減により持続可能な漁業継続を実現するために、創意工夫を凝らして事業に取り組む。